

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新英金属株式会社 東栄プレス工場	階数	地上1F
建設地	安城市東栄町七丁目2-2	構造	S造
用途地域	工業地域、その他地域	平均居住人員	3人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,000時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年12月 予定	評価の実施日	2015年2月24日
敷地面積	14,916.92 m ²	作成者	加藤 正司
建築面積	2,591.32 m ²	確認日	2015年2月24日
延床面積	2,382.08 m ²	確認者	堀尾 芳弘

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

2-4 中項目の評価 (バーチャート)

Q のスコア = 2.6

Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.1

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数 (外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">23.1 %</p> <p>建物緑化指数 (建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">28.8 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮


②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			全体
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 騒音										
1 室内騒音レベル										
2 設備騒音対策										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 負荷変動・追従制御性										
3 外皮性能										
4 ソーン別制御性										
5 温度・湿度制御										
6 個別制御										
7 時間外空調に対する配慮										
8 監視システム										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 屋光利用										
1 屋光率										
2 方位別開口										
3 屋光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 照明器具のグレア										
2 屋光制御										
3 映り込み対策										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
2 アスベスト対策										
3 ダニ・カビ等										
4 レジオネラ対策										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4 給気計画										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
3 衛生管理業務										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震										
1 耐震性										
2 免震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										

② 耐用年数は50年を設定。
コンクリートにて仕上げ。
コンクリートにて仕上げ。

2.4 信頼性				2.4	0.19			
1 空調・換気設備				1.0	0.20			
2 給排水・衛生設備				4.0	0.20			
3 電気設備		②	グリーン購入法商品の採用。井水も利用。	3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				1.0	0.20			
3 対応性・更新性				3.6	0.29			3.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1 階高のゆとり			天井高:13.66m	5.0	0.60			
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率=0.08	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31			
3.3 設備の更新性				3.0	0.38			
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性				3.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.57			2.1
1 生物環境の保全と創出	●	③		2.0	0.30			2.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④		2.0	0.40			2.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30			2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④		2.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.4
LR1 エネルギー				-	0.40			3.5
1 建築物の熱負荷抑制				-	-			-
2 自然エネルギー利用				4.0	0.50			4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			トップライトの設置。	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用			太陽光発電の設置。	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				-	-			-
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				-	-			-
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				3.0	0.50			3.0
4.1 モニタリング				3.0	0.50			
4.2 運用管理体制				3.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.4
1 水資源保護				2.6	0.15			2.6
1.1 節水				1.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.6	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無			井水を緑地散水用として利用。	4.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63			3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●		建設汚泥再生処理土、再生骨材	4.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		内装材と設備の取外し可能。	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆の利用。	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			
1 消火剤			不活性ガス消化剤を利用。	4.0	1.00			
2 発泡剤(断熱材等)				-	-			
3 冷媒				-	-			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.2
1 地球温暖化への配慮		①	太陽光パネルの設置。	4.3	0.33			4.3
2 地域環境への配慮				2.6	0.33			2.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●		雨水用の貯水槽を設置。	4.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●			3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制			分別回収の実施。	4.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				2.8	0.33			2.8
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵・日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				2.3	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				2.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEEあいち評価マニュアル2011年度版

新英金属株式会社 東栄プレス工場

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策				4.3	
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10		
② 資源の有効活用					3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.13		
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.12		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19		
③ 敷地内の緑化				2.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.17		
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-		

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

- ①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化
重点項目スコア=各配慮項目の評価点
- ②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和
重点項目スコア= 重みの総和
- ④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>基本的には鉄骨造としながらも、腰壁にコンクリートを施工することにより、耐震性能、遮音性能、安全性能を高めた工場として、耐用年数を50年に設定した。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>評価対象外</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>外装をコンクリート打放し+撥水材塗布、押出成形セメント板+ウレタン塗装として、メンテナンスが容易な仕上げとしている。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地の外周部に多くの植栽を配置する計画としている。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>太陽光パネルの設置や屋上緑化を積極的に採用した。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>仕上げ材と設備配管を独立させて、それぞれの再利用可能性向上を配慮した。また、雨水や井水を積極的に利用する計画とした。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>鉄骨造の工場の腰壁にコンクリートを施工することにより、敷地外への振動や騒音をできるだけ抑える計画とした。敷地内の車輛動線を循環できるようにして、敷地外の渋滞緩和に配慮した。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>